市民・にぎわいスポーツ文化・消防委員会行政視察概要

1　視察月日　　令和５年７月３日（月）～７月５日（水）

2　視察先及び視察事項

（１）サッポロ・シティ・ジャズ実行委員会（北海道札幌市）

多様な音楽イベントを活用した地域のにぎわい創出に関する取組について

（２）北海道岩見沢市

岩見沢市観光振興戦略について

（３）北海道千歳市

千歳市防災学習交流センター「そなえーる」における防災の普及の取組について

（４）公益財団法人アイヌ民族文化財団（北海道白老町）

ウポポイ（民族共生象徴空間）におけるアイヌ文化の伝承・共有の取組について

3　視察委員

副委員長　鴨志田　啓　介
同　木　内　秀　一
委　員　黒　川　　勝
同　小　松　範　昭
同　瀬之間　康　浩
同　尾　崎　　太
同　大　山　しょうじ
同　田　中　ゆ　き
同　深　作　祐　衣
同　太　田　正　孝

視察概要

１　視察先

サッポロ・シティ・ジャズ実行委員会（北海道札幌市）

２　視察月日

７月３日（月）

３　対応者

事務局長　　（受け入れ挨拶）

事務局次長　（説明）

代表幹事　　（説明）

４　視察内容

多様な音楽イベントを活用した地域のにぎわい創出に関する取組について

ア　サッポロ・シティ・ジャズの土台となる様々な取組と開催経緯

サッポロ・シティ・ジャズ（以下、ＳＣＪという。）は、札幌から新しいジャズ文化を発信することを目的として1999年から2006年まで開催されたサッポロ・ジャズ・フォレスト（以下、ＳＪＦという。）を前身としている。またＳＪＦと連動して、ジャズを通して子供達の豊かな情操を育むことを目的に、2000年以降福祉施設や地域イベントでの演奏等、音楽を通じた奉仕活動や地域振興を行っている札幌ジュニアジャズスクール、そして高水準技術習得を目指す若い演奏家のニーズに応え、現代音楽における教育機関最高峰であるアメリカ・ボストンのバークリー音楽大学の現役教授陣からの指導を受けられる制度を設け、全国から若い才能が集う契機となった北海道グルーブキャンプを土台とした大型ジャズフェスとして、2007年に第１回となるＳＣＪが開催された。

イ　ＳＣＪの概要

「札幌がジャズの街になる」をキャッチコピーに、市民や観光客への訴求力及び都市としてのブランド力をより一層高め、魅力ある街づくりに貢献できる音楽イベントとして、札幌市内を舞台に毎年開催されている。１年を夏と冬の２シーズンに分けて、オープンエアーな夏空のもと繰り広げられる７月をメインとする夏のジャズと、劇場やスタジオなど様々な会場でプログラムを展開する12月をメイ

ンとする冬のジャズを開催している。

2022年の入場者数は夏が２万2942名、冬が2471名にのぼり、その他プログラムを含め、合計入場者数は３万3515名を記録した。

ウ　ＳＣＪの様々な地域貢献活動

（ア）ジャズイベントを通した街づくりへの貢献

開催当初より毎年７月の約１か月間、札幌市中心部に位置する大通公園に設置しているドーム型テントのホワイトロックは４００席定員の客席を有する食事と音楽を楽しむライブ形式の会場であり、映像投射による幻想的な空間演出で話題を集め、札幌の夏の風物詩として定着している。また2013年以降は２階部分を新設した約５５５席定員のサッポロミュージックテントへ移行し、さらに多くの集客が可能となった。2018年からは、新たにオープンした札幌文化芸術劇場hitaruへと会場を移し、シアタージャズライブとして新たなフェーズへと展開している。

シアタージャズライブは、地元の食材をふんだんに取り入れた料理を味わいながらジャズを楽しむという当初からのライブコンセプトをそのまま生かしながら、hitaruの巨大な多面舞台の空間と最新鋭の舞台機器を駆使した新たな演出により、札幌独自のライブスタイルとして全国から注目を集めている。

大通公園や札幌市役所、札幌芸術の森を含む札幌市内10数か所で一斉に演奏されるパークジャズライブは、公募によりプロ・アマチュアを問わず全国から２００組1000人以上のバンドが参加し、札幌の街中で演奏される無料ライブは毎年２万人以上の集客力を誇る。また､同時開催のパークジャズライブコンテスト事業との連動により、パークジャズライブが全国的に注目を集めている。札幌芸術の森アートホールアリーナで開催される同コンテストでは、優勝バンドに海外ジャズフェスティバルへの出場権の授与や渡航支援、またＳＣＪ開催の各ライブ出演依頼を行っている。このようなアーティスト飛躍の機会創出が注目され、今では国内若手ジャズプレーヤーの登竜門として位置づけられている。

他にも、体の不自由な人でも楽しめる映像と即興をテーマにしたユニバーサルジャズライブや北海道ルスツリゾートを会場に演奏するRusutsu １００ days Music Live、小樽芸術村とのタイアップライブ等、公民・市内外を問わない企業・団体との連携により、市内外どこでもステージとした様々なジャズイベントを実現している。

企業・団体とのタイアップ事例としては、創成川東側に位置する北海道ガス株式会社の本社ビル横に屋外ステージを設置し、創成東地区における新たな賑わい創出を目的として、札幌に所縁のあるプロミュージシャンや小中学生で構成されるアマチュアバンドによる野外ライブを令和５年９月30日及び10月１日と２日間にわたり開催予定である。

（イ）市民交流プラザを活用し進化するシティ・ジャズ

札幌市内全体を舞台としたジャズライブのみならず、市民交流プラザ内のスタジオや図書館を活用した無料コンサートや学び、情報交換の要素を加えた普及プログラムも開催している。これらはミュージックテント時代に好評を得た普及事業を継続及び発展させたものであり、交流プラザの機能を活用した事業として、多くの市民から高い評価を得ている。

2020 年以降は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、運用面やサービス面で従前の実施方法からの変更を余儀なくされた部分もあるが、感染症対策を実施ながらオンラインによる実施を取り入れるなど､様々な工夫を行いながら事業を継続している。

2022 年にはイベント開催条件の緩和が少しずつ進む中、引き続き感染症対策を徹底しながら、同年７月に３年ぶりとなるパークジャズライブを市内 10 か所で開催した。また同年８月のユースジャムセッションでは、アメリカ・ボストンのバークリー音楽大学から芸術監督のタイガー大越氏を招聘し、10 代から 20 代のユース世代に向けた指導及びセッションを行った。

（ウ）市民の活動参加への促進事業JAZZ SAVERS

地域でのフェスティバル事業を支えるため、１００人以上の市民ボランティアで組織されるJAZZ SAVERSが開催期間中に各会場の運営・地域づくりの担い手として市民が参加している。2019年からは事業運営の担い手育成を目的にジャズプランナー育成講座を実施し、イベントにより深くコミットする人材の育成、市民層の形成に取り組んでいる。

エ　質疑概要

Ｑ　ＳＣＪは夏・冬と年間を通して長い期間開催しているが、どのような狙い、目標をもって開催期間を決めているのか。

Ａ　ＳＣＪ開始前から取り組んでいる札幌ジュニアジャズスクールが前提にあるのが大きく影響している。ＳＣＪは当初夏のみの開

催で検討していたが、育成事業含めたイベントとして捉えていく中、規模、参加者数等、国内最大級を目指すうえではやはり通年開催が最適ではないかという結論に至った。

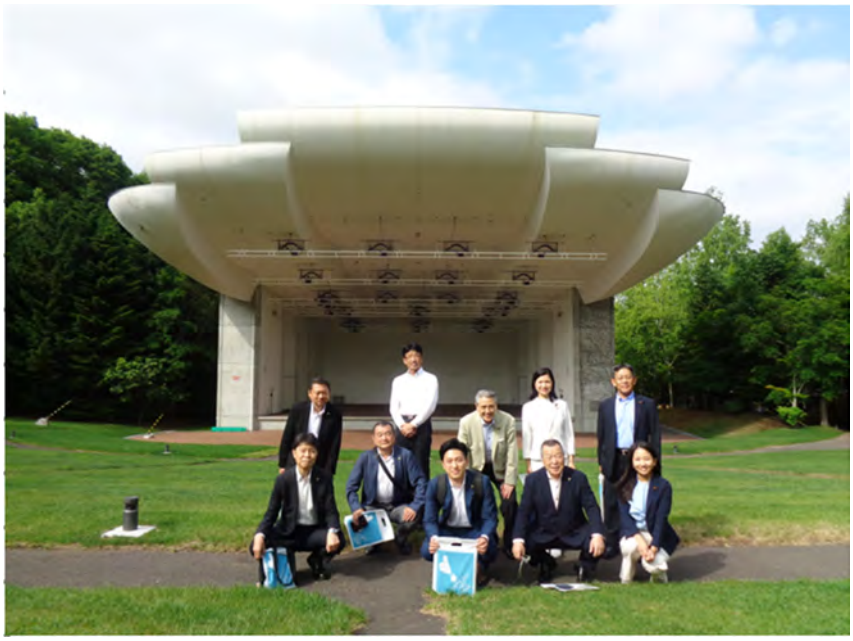
Q　全てのプログラムを含めた予算はどのくらいなのか。また、ミュージシャンの出演料等は予算だけでは賄えないのではないか。その場合、どのように工面しているのか、採算を取るためにどのような工夫をしているのか。

A　一部の事業は実行委員会の予算で賄っており、規模は約7000万円。ジュニアジャズスクール、シアタージャズライブ等、財団主催の事業は財団の予算で賄い、年度によって金額は異なるが約4000万円から5000万円。他にも各所からの負担金、協賛金、入場料収入等により費用を賄い、最終的には収支ゼロになるように予算を組んでいる。コロナ禍では対策として客席数を減らし、入場者数を制限した影響で、多少赤字になった。ルスツ等とのタイアップ事業ではホテル側が費用を負担しているので財団は負担がない。

Q　札幌市民の理解はどのように得ているのか。

A　札幌市で実施している文化意識調査では、知っている文化事業のトップが毎年ジャズイベントとなっている。2000年初頭から前身のイベントが始まり、今現在も続くＳＣＪはすぐに理解を得たわけではなく、継続していく中で、徐々に市民の生活に根付いていった。今では街中でゲリラ的にジャズの演奏が始まっても、市民は日常のように自然と受け入れてくれる土壌ができている。

（会議室にて説明聴取及び質疑）



（札幌芸術の森敷地内にて）

視察概要

1　視察先

北海道岩見沢市

2　視察月日

７月４日（火）

3　対応者

議長　　（受け入れ挨拶）

観光物産振興課長　（説明）

4　視察内容

岩見沢市観光振興戦略について

ア　概要

岩見沢市総合戦略において、市内への人の流れを生み出す重要施策として観光への期待が高まる中、地域資源を活用したオリジナリティーのある着地型観光を推進し、交流人口の拡大を図ることが求められている。このような背景から、環境の変化に対応した観光施策の展開に向けて岩見沢市観光振興戦略（以下「戦略」という。）が策定された。岩見沢市では基本戦略を基に、新たな人の流れをつくる観光施策を積極的に展開し､観光振興を具体的に推進している。

イ　戦略策定の背景及び経緯

岩見沢市は札幌市､旭川市及び富良野市等の有名観光地に囲まれ、地理的に恵まれたエリアに位置している｡さらに道内最大のバラ園、ワイナリー、遊園地、果樹園、歴史遺産、音楽ライブ等、多くの観光資源も豊富に有しており、自然現象である大雪やのどかな田園風景も、都市からきた国内旅行者や外国人からすると非常に価値の高い資源が点在している。

観光市場の視点で見ると、札幌や小樽、富良野・美瑛といった定番の観光ルートは長年旅行商品として取り扱われ、定着している一方で飽和状態となっており、観光市場は新たな観光素材や商品を求めていることから、岩見沢市の魅力を国内外に広く伝えることで、将来的に観光客が増える可能性が高いと考えられたが、戦略策定にあたり以下５点の課題を抱えていた。

・観光地としての認知度が低く、ターゲットに対しての情報発信力

が弱い

・新千歳空港、札幌に近接し、また旭川や富良野といった有名観光地へのルート上に位置しながら、岩見沢市が目的地となるような取組が実施できていない

・特に道央圏において外国人観光客が増加している中、それらの受け入れ体制が整備されていない

・魅力的な観光資源を十分に生かしきれていない

・今後の観光戦略を市民と共有しきれていない

岩見沢市では戦略策定を契機に、先の課題への対応を踏まえ、改めて明確な顧客ターゲットを定め、市内外に向けた宣伝にも注力を進めている。市内への人の流れを生み出すには、消費の多い道外観光客やインバウンド観光客を顧客ターゲットに位置付け、岩見沢市が観光の目的地となるよう、下記３点を前提とした観光振興施策が必要と判断した。

・外部環境を含めた市場分析と岩見沢市の地域資源の顕在化

・観光マーケティング・ブランディング戦略の構築

・上記戦略を実施するための推進組織体制の構築

さらにそれらを踏まえて、戦略の柱を二つに絞り設定した。

① 岩見沢市観光協会のＤＭＯ化

② 観光拠点としてのログホテルメープルロッジ

ウ　観光地域づくりの舵取り役として岩見沢市観光協会をＤＭＯ化

岩見沢市の観光が持続的かつ自立した形で運営・推進されていくためには観光協会の機能が重要になる。現状、日本の観光協会の多くは地元住民のための観光協会となっており、祭りや地元イベントに人、時間及び予算が費やされていることが多い。

岩見沢市の観光協会においても、人員や予算などの制約から同様の課題を抱えている状況であり、国の提唱する日本版ＤＭＯの概念を用いた組織への変革が必要だった。

そこで、岩見沢市観光協会を日本版ＤＭＯに登録し、観光地域づくりの舵取り役としてのマネジメント組織への展開、また内向きから外向きの団体として、持続的かつ自立した組織に変革した。

エ　観光拠点に位置付けるログホテルメープルロッジ

ログホテルメープルロッジは、今後岩見沢市の観光振興の中心及び拠点になり得る宿泊施設であり、この施設の存在自体が岩見沢市観光を象徴し、岩見沢市ブランドに直結する観光戦略推進拠点とし

て位置づけられている。

戦略策定に伴い、まず2018年には前身となるスパ・インメープルロッジからログホテルメープルロッジへと改名を行い、2019年にはポタジェエリア及び１日１組のコンシェルジュ付きグランピングエリアを開設した。

カナダ原産の木材であるレッドシダーをふんだんに使用した国内最大級のログハウスを前面に押し出し、部屋数をあえて減らすことでラグジュアリー性を強調し、アメニティ・食事等のランクアップやスタッフの接客サービス向上を図った。

また海外インバウンドを顧客ターゲットに置くことで、他都市には無い希少な体験ができる宿泊施設として差別化を図っている。また、以下５点のツーリズムと合わせて、宿泊だけではなく、旅程すべての時間を市内で過ごしてもらえるような施策を考案している。

・アグリツーリズム（農業体験等）
・ワインツーリズム
・スノー体験ツーリズム
・ヒストリーツーリズム
・エンターテインメントツーリズム（音楽ライブ等）

オ　質疑概要

Ｑ　メープルロッジの宿泊料金は変動制なのか。

Ａ　繁忙期及び閑散期に合わせた価格変動制を採用しており、年間に５回から６回に分けて細かく料金設定をしている。徐々にサービスレベルも向上し、お客様からは価格以上の評価をいただいている。

Ｑ　グランピングの料金設定はどうなっているのか。

Ａ　大人１人一泊約３万円前後。料理や空間占有を考慮すると相場的にも決して高くはないと考えている。

Ｑ　部屋数が15部屋と宿泊客数が限られる中で、日帰りの利用客等への対応はどこまで進んでいるのか。

Ａ　団体客による農業体験を推進している。西日本の小中学校等では北海道での農業体験に人気があり、社会人の団体客にも波及している。

Ｑ　メープルロッジへの二次交通はどのような手段があるのか。

Ａ　岩見沢駅からロッジまでコミュニティバスが運行している。また、事前に連絡をいただければロッジからも送迎車を手配してい

る。

Q　利用者は国内の方が多いのか。

A　国内からの宿泊客はもちろん、インバウンドではシンガポールからのお客様が特に多く、他にも香港、台湾、中国からの方々もいる。

（会議室にて説明聴取及び質疑）

（ログホテルメープルロッジにて）

視察概要

1　視察先

北海道千歳市

2　視察月日

７月４日（火）

3　対応者

施設長　　（受け入れ挨拶、説明）

4　視察内容

千歳市防災学習交流センター「そなえーる」における防災の普及の取組について

ア　防災学習交流施設建設の経緯及び目的

千歳市には活断層があり、直下型の地震発生も予測されると同時に千歳川やママチ川等から起こる洪水による浸水も予想される地域であるため、阪神・淡路大震災における自助・共助の重要性を教訓として、災害に強いまちづくり及び市民の防災意識向上を目指すことを目的に防災学習交流センター「そなえーる」（以下、そなえーるという。）が建設された。

市民（自主防災組織）、ボランティア及び防災関係機関が単独または相互に連携し防災学習や防災訓練等を実施することで、市民や防災関係機関の防災力を高めるとともに、防災関係機関に対する理解を深めることを目的としている。

イ　施設及び設備等概要

防災学習交流施設はＡゾーン（ヘリポート、防災訓練広場等）、Ｂゾーン（学びの広場、雨水調整池等）、Ｃゾーン（防災の森、キャンプ場、多目的広場等）の３つのゾーンから構成されており、そなえーるはそのうちのＡゾーン内に位置する。また、そなえーるには施設に併設する形でロープ訓練塔、見学デッキ及び訓練副塔兼防災備蓄倉庫が設置されている。

市民の防災意識を高めるため、千歳市総合防災訓練や町内会、自主防災組織等による消火・救出等の防災訓練、救急講習会、市民対象の防災講座や防災イベント等の事業を展開している。

また、施設内には以下のような、様々な災害体験ができるコーナ

ーが設けられている。

① 地震体験コーナー

東日本大震災や胆振東部地震、熊本地震など過去に起きた大地震の揺れを実際に体験することができる。

② 煙避難体験コーナー

煙を充満させた建物内で、煙の中からの避難行動を体験できる。

③ 予防実験コーナー

実験装置を利用して天ぷら油やコンセントからの発火現象を見ながら、火災の原因を学ぶことができる。

④ 通報体験コーナー

ディスプレイに表示される緊急事態のアニメーション映像と、受話器から聞こえる消防署員の問いかけに応答し、緊急事態に遭遇した場合の119番通報を疑似体験できる。

⑤ 防災情報検索コーナー

防災に関する各種情報を調べ、子供でもチャレンジできるクイズが出題される。

⑥ 避難器具体験コーナー

救助袋など、ホテルやマンションなど高層ビル等に実際に設置されている避難器具の取り扱いや避難方法を体験できる。

ウ　市民の防災意識向上

千歳市はこれまでも台風被害、豪雨、雪害等、地理気候の影響や地震等により様々な災害に見舞われており、実際に大規模な土砂災害等の被害に遭われている市民もいる。また、平成30年９月に発生した北海道胆振東部地震では、道内において観測史上初の震度７を記録し、千歳市でも震度６弱を記録した。当時、震源地から35kmと近い距離でありながら、大きな被害にはつながらなかったが、市民の間ではそれを機に、改めて防災及び災害対応に対する意識が強まっている。そなえーるは身近な防災学習施設として、市民を中心に、防災意識向上に寄与できるような既存及び新規の取組を継続して行っている。

エ　質疑概要

Ｑ　繁忙期、閑散期など時期により入館者数の差はあるか。

Ａ　小中学校等、団体での利用については時期を問わず、年間通して利用があるが、家族などの個人利用は夏休み、冬休みまたは週末での利用が多い傾向がある。

Ｑ　開業して何年目か。

Ａ　平成17年度に補助事業として採択され、平成18年度から平成22年度にかけて用地取得から設計、施工等順次行い、平成22年４月に開業したので、令和５年で13年目を迎えている。

Ｑ　防災訓練をするときに、自衛隊の協力等はどのような規模で行っているのか。

Ａ　施設前の広場を使用し、消防、警察、自衛隊、海上保安庁、国土交通省等あらゆる関係機関の協力のもと、大規模な防災訓練を毎年実施している。また、広く市民の皆様にも災害体験をしてもらえるよう、キッチンカー等を用意した防災フェスティバルを年１回開催している。

（会議室にて説明聴取及び質疑）

（正面玄関にて）

視察概要

１　視察先

公益財団法人アイヌ民族文化財団（北海道白老町）

２　視察月日

７月５日（水）

３　対応者

国立アイヌ民族博物館研究学芸部研究交流室長　（受け入れ挨拶）

国立アイヌ民族博物館企画部企画調整課参事　（説明）

４　視察内容

ウポポイ（民族共生象徴空間）におけるアイヌ文化の伝承・共有の取組について

ア　ウポポイ（民族共生象徴空間）の概要

ウポポイは、国の貴重な文化であり、存立の危機にあるアイヌ文化の復興・創造等の拠点として、また将来に向けて先住民族の尊厳を尊重し、差別のない多様で豊かな文化を持つ活力ある社会を築くことを目的とした空間及び施設として2020年７月に開業した施設である。

敷地内は国立アイヌ民族博物館、国立民族共生公園、慰霊施設、体験交流ホール等により構成されている。また、施設の名称であるウポポイはアイヌ語で大勢で歌うことを意味する。

イ　国立アイヌ民族博物館の概要

先住民族アイヌを主題として、アイヌ民族の誇りが尊重される社会を目指し、多くの人にアイヌの歴史や文化を伝え、アイヌ文化を未来につなげていくことを目的とした施設として位置づけられている。

基本展示室では、ことば・くらし・交流等６つのテーマでアイヌ民族の視点を紹介し、１階シアターではアイヌ文化に関するショートムービーを各種上映している。別館の体験交流ホールでは北海道各地で異なるアイヌの伝統芸能（舞踊・音楽・生活習慣等）を実演で鑑賞できる。

ウ　体験交流ホール

体験交流ホールでは、各地の伝承者の協力を得ながら様々な時代

の伝統芸能を継承・復興し、来場者にその魅力を伝えている。アイヌの伝統芸能は儀礼や日常のさまざまな場面で演じる生活にかかせないものであり、心情をうたう叙情的な歌から娯楽性のある舞踊劇などその種類は多岐にわたっている。今日では音楽や舞台劇など多様な活動も行われており、ウポポイにおいてもアイヌの文化をより多くの人に知ってもらうため、世界に向けてアイヌの伝統芸能を発信している。

エ　アイヌ文化の伝承・共有につながる取組について

主要３施設を中心に、国内外からの旅行者または修学旅行等の学生等幅広い国籍及び年齢層を対象にしたアイヌ文化の伝承、人材育成活動及び体験交流等様々なプログラムを実施している。体験学習館ではアイヌ料理の調理や食事、工房ではアイヌの木彫・刺繍・織物等、また体験交流ホールではアイヌ古式舞踊を体験することで、アイヌ文化の理解を深めると同時に互恵的共生の在り方を学ぶきっかけを提供している。

ウポポイ及び施設運営を担う公益財団法人アイヌ民族文化財団では、各施設の取組や活動を通して、今日存立の危機にあるアイヌ語やアイヌ伝統文化等に関する普及啓発を推進し、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現を目指している。

オ　質疑概要

Ｑ　ウポポイの年間入場者数はどのくらいか。

Ａ　開業した年が令和２年７月だが、新型コロナウイルス感染症の流行がまさに始まった年なので、初年度は約22万人、そこから開業３年目にあたる2022年度には約36万人を達成している。

Ｑ　展示物にはかなり保存状態の良いものも見受けられるが、どのように管理しているのか。

Ａ　当時使用していたものや衣装ももちろんあるが、劣化の激しいものや修復が難しいものは過去の文献等を参考にしながら、施設の職員や研究員によって再現しているものもある。

Ｑ　再現する上で、配慮していることはあるか。

Ａ　詳細な資料が残っているものでも、やはり作り慣れていないので再現するのも難しい。研究を重ね、工夫を凝らして作成している。

Ｑ　パンフレットに記載のあるチセとは何か。

Ａ　チセとはアイヌ語で家屋という意味であり、ウポポイ内にはア

イヌの伝統的な生活空間を体感できるチセ群のエリアを設けている。室内の見学のほか、アイヌの暮らしや文化についての解説等をするプログラムを用意している。

（アイヌ民族博物館にて館内及び展示等の説明聴取）

（ウポポイ（民族共生象徴空間）にて）